

先

法人 請

六、今般仕屋と云ふ所の言つて重切なと其のよろしとありしとありし致純  
かほし新工と云ふ坊に入るとあかしてはるゝめかたし一五七六、十二  
のまゝに工事をはたがたうと掘りしつて金儲けの毎に晩迄留と  
鳴りしと云ふ事はいふに免済るは注釈し困つてあること。

七、才更ニヤル工から出た九時兩曲は毎日うらに博山問答から返すたは  
末に困つてあること。

八、今般仕屋の坊内には平第の八割より出た出来と結法螺  
と吹してあり、お母の抱車と両方あるもの四千樽から第の掘つたの  
たかど、去年の今時分に比べると二割の少し余計にわるといひし  
こと。

九、妙様は存心わが今般か何人は要する付とてうらむ人おめと云う  
はるゝと云つた耳にうらむとて、おれらぬつりきんをんをんをん

御いし我々今般をうらむわがめと云ふ

宮本藤花  
労働組合

野田支部

財團 協 調